

國學院大學 教職課程科目



ICT教育の理論と方法 第11回

ICT機器を効果的に活用した実践①

山梨大学教育学部 稲垣 俊介

※宿題の入力フォームは私のWebにあります。

※できるだけ前に座ってくださいね。

課題

「情報モラル」の授業のためのスライドをPowerPoint形式で作成してください。もしPowerPointをお持ちでない場合は、大学のPC室で作成をお願いします。スライドのノート部分には、そのスライドで話す内容を示してください。

作成するのは50分の授業ですが、授業内で紹介できるのは4分となります（申し訳ありませんが、発表準備を含めて4分以内に終わらせてください）。どのように紹介すれば良いのかをよく検討し、聴衆である学生や私（稲垣）にわかりやすく発表してください。

なお、紹介スライドを作るのではなく、あくまで授業スライドを作成し、そのスライドを発表時にも使用してください。

課題

情報モラルの授業で利用する素材はPowerPointに埋め込むようにしてください。

授業で配布するプリントなどはWord形式で追加提出できますが、プリントの配布は講義ではできませんので、聴衆に理解してもらえらる工夫が必要です。

できるだけ全員に発表してもらおうつもりです。

もし前半で発表する学生が少なければ、後半は希望者が増えるかもしれません。

しかし、授業時間の5分前には発表を終わりにします。

よって、できるだけ前半で発表するのが良いと思いますが、発表順は自由とします。

課題

- 提出はK-SMAPY II を通して行います。
- 提出期限は7月5日(金)です。
- 締め切り後や他の方法(メールなど)での提出は一切認めません。余裕をもって提出しましょう。
- 発表スライドの最初と最後に学生番号と氏名を記載してください
- 発表は7月8日(月)からスタートし、7月15日(月)、7月22日(月)とします。
- 次回発表したい方は、後ろに自分の席を確保しつつ、一番前にPCを置くなどして発表の意思を示してください。

前回の課題提出より

実習A

皆さん(稲垣を含む)の意見を聴いて、
さらに思うことがあれば自由に書いてみてください。

私も特別支援学校においては、多くの財政を使うべきだと思う。私は特別支援教育とは主に義務教育の期間において重要な役割を果たすものであり、また義務教育の意味とは社会生活において必要な基礎力をつけることであると考えている。つまり、社会的基礎力を身につけるにあたって誰かの支援が必要になる子ども達が、通常級の子ども達と同じように知識や力を身につけられるように教師を増やしているということだ。逆に言えば、能力や才能を見出すことも大事だが、それはその後の生活の中で見つかる可能性が十分にあるため、そこに重点を置く必要はないと思った。通常級でもそのように教師を増やせばより多くの才能を見出すことができると思うが、義務教育課程の意味とはそこではないと感じるため、通常級は今まで通り大人数で良いと思った。

AIをもっと布教されるべきだという意見や人間がやることに意味があるからあまり布教しなくてもいいと思うという意見があって、どちらの意見も正しいなと思った。AIはとても便利なもので人間の負担を無くせるけど、人間がやるから信用出来るものもあるので、使う場所をしっかりと考えて対応させて行くべきだと思った。特に教育の場所には、AIを使うことで一人一人に合わせた授業を展開することが出来たり、障害を持った子達にもわかりやすい教材を提供することが出来るためもっと進化させて、利用していくべきだと思う。先生が普通のクラスに特別支援の対象になる人を入れるべきだと思うって言っていた意見に対して、私もそのように思った。なぜなら、AIも進んできて障害を持っていてもみんなと同じような教育を受けることができるようになってきているからである。授業内では分けてもいいかもしれないが、自由時間はみんなとすごした方が、周りも同じように扱うことが出来、仲良くなることが出来るが、分けることで接しづらくなったり、接し方が分からなくなったりするためこの方がいいと私は考える。

オンライン授業をするにあたり、つまらない授業をしたら子どもたちはおそらく集中しないというのは納得だなと思いました。現代の子どもたちは、ショート動画などに慣れてしまい、最初が面白かったり興味を惹かれたりしない限り見てすらくれないのではないかと思います。そのため、より授業づくりがオンラインではなおさら大変になるなと考えられました。AIに取って代わられる仕事について、正直人間より効率的な点ばかりが目についていたけれど、人間がやることでしか得られない満足感や気配りといったものが特に接客業では感じられるのではないかと思います。全ての仕事はAIに取って代わられても、人間の良さに逆説的に気づくことになるのではないかと思います。

AIやロボットになったことで高級感が失われるという観点は興味深いなと感じた。一方で、先端技術を利用したいいわゆるハイテクな技術を感じられるレストランは付加価値が高まり、高級なものとなるように思う。このような付加価値の欠点は、時代の進化とともに価値が失われていく点にある。人間による付加価値の提供はその価値が失われにくいという点で有効な付加価値をつける基準となるだろう。平等と公平の認識の違いによって平等であるべき場面と公平であるべき場面の違いをどれだけの人が理解しているのかが今後の教育に大きく関わっていくように思った。自分の認識の話をしませんが「平等」→スタートラインを揃える「公平」→個々人の能力に応じて、達成することのできるタスクのレベルを均一にする(ex/暗算でできない場合、電卓を使用するなど)という認識である。このような認識でいることが正しいか分からないが、平等で公平な教育を達成させるよりも、それに近づける努力が必要だと考えた。

実習！

今の話、「あたりまえのアクセス」についてあなたはどのように感じましたか？
あなたの素直な感想や意見を聞かせてください。

自分で出来ることまでサポートされると自分が出来ることを見失い生きる希望がなくなってしまうため、当事者が思う当たり前の日常を支援することで過ごせるようになるものは、支援するべきだと思う。

知的・発達障害児の思い描くあたりまえにアクセスできるようにICTなどを用いて支援をすること自体は良いことのように感じた。ただ、社会において彼らのあたりまえがどの場面でも許容されるかと言われればそれは違うと思うので、言い方は悪いけれど考えが甘い部分があると思った。

理想自己と現実自己のギャップを埋めるのに最適な考えであると感じた。特別支援教育の中で一番重要であることは当人を認めてあげることだと聞いたことがあるので、最適だと思った。

~~したいが自分はできていることばかりで「当たり前」だと思っていたが、実際はそうではない人も大勢いることを認識し、教育の現場においては、その「~~したい」を可能な範囲で生徒に経験させてあげることが大切になると感じた。

社会通念や年齢的に求められることをあたりまえとすべきではないというのはよくわかるが、当人があたりまえだと思ったことを無条件に叶えてしまうと、サポートする側のQOLが損なわれてしまうのではないかと感じた。

実習2

実習1の素直な感想を踏まえて、

あなたはどのように特別支援教育が行われていくことが理想であると思いますか。

また、その理想のために自分ができることは何だと考えますか

特別支援教育は障害を持つ子どもが他の子ども達と同じスタートラインに立てるようにサポートするものだと思う。そのため試験を受ける際の配慮をすることを躊躇わず、偏見を持たず、むしろ勧めるように協力しようと思った。

自分たちにとっての当たり前ではなく、当事者やその家族にとっての当たり前を支援するというのは、親のストレスも軽減できて、とてもいい考え方だと思った。映画の席の小さい子へのクッションや車椅子シートもそれに含まれるのかなと思った。

理想の特別支援教育は生徒の興味関心を一緒に追求することのできる人を一人つけ、生徒に寄り添った学習をしていくことだと思う。自分ができることとしては「～～したい」に応えられる知見を広げ、どの方面でも学びを深めさせてあげられるように準備しておくことくらいしか今はできない。

私の父も小学校で特別支援学級の担任をしているが、特別支援のことでよく話してくれるのは、普通学級の子どもたちと同じように個人差もあるし、普通学級の子どもたちが、先生や他社から自身の考えを押し付けられたり、何でもかんでも手取り足取り？支援されてしまうというのを嫌がるのと同じく、特別支援学級の子どもたちだからと言って、根本的な部分にあまり変わりはないのだと言われる。このことから考えてみると、やりすぎない？ことが大切な気がした。手取り足取りすべて支援するのではなく、その生徒が必要としている最低限の支援をして、生徒を温かく見守るので良いのではないかと思った。

障害を持つ子供たちや、対象の子供たちが、できないからとあきらめさせてしまうのではなく、したいと思うこと、やりたいと思うことを、すべてではなくてもできる限りかなえることができるようにすることが、特別支援教育が目指すべき理想であると考えました。そのために、一人一人に合った教育を考えて、サポートすることが自分たちができることだと思いました。

実習3

この授業で学んだことを「深く」考えて書きましょう。
また、どのように自分の教科に取り入れていけばいいでしょうか？
その視点も取り入れて書いてくださいね。

合理的配慮をしたことでみんな同じスタートラインに立てると
思うため、配慮をするべきだと思う。しかし、その中でも内容や
点数の付け方はみんな同じにし競争はさせるべきだと考える。
他の子もそのような環境で試験を受けた方が点数が上がる
などの理由で申し出てくる子供がいると思うが、その子達はプ
ラスアルファが欲しいだけだと思つたため、申し出る際には何か
証明などを持って来させて判断する。

障害を持っている人達は、私たちと同じ日常をすごしたいときっと思っている。私達もそれを受け入れる心を持っている。しかし、私達には何が必要で何が不自由かはあまり分からないと感じてしまった。今日実際聞いている中で、たしかになと思う部分が多くあった。でも、相手の立場にたって考えてみると、働きたい、歌いたいといったことを周りはできてるのに自分は出来ないというストレスが絶対溜まると思った。それを教育に結びつけると、みんなと一緒に授業を受けられない、読み書きが自分だけできないっていうのはとても不安で親もなんで自分の子供だけと感じてしまう。だからこそ、同じ授業の中でその子に合わせた支援をすることや休み時間をみんなと過ごすという支援の仕方が必要なのではないかと思った。でも、難しい部分もあると思うので、本人が何パターンも選ぶことの出来る状況を提供してあげること考えのひとつに入るのではないかと思った。今回の授業では、考えても難しい部分があった。だからこそ、これからも考えて考えてみんなが過ごしやすい教育現場を作る必要があると思った。

教育の評価における合理的配慮の方法について、本当に難しい問題であると感じた。どうすれば全員が公平だと感じられる教育を執り行うことができるのか、考える必要があるだろう。眼鏡やコンタクトレンズ、補聴器の利用は公平性を欠くのかなどの問題について思うことは、現代の学校教育が知識を蓄え、知識をアウトプットすること、論理的読解および思考を素早く的確に行うことに重点を置いているからであると思う。であるからこそ、思考の時間を延ばすこと、思考を邪魔する雑音の排除を特別に行うことなどには反発が大きいのではないだろうか。全員を統一の基準で一面的に画一的に測るのではなく、多面的・多角的な視点に立ち、様々な試験、評価方法を踏まえて総合的な評価を行うことが必要なのだと思う。もっとも、その方法を考えることが最も難しいことなのだと思う。

AIがどんどん普及していくことは目に見えているからこそ、子供たちと間近に関わる教師という職業は人ならではの温かみのようなものを忘れずに持ち続けていかなければならないと感じた。だからこそ、以前話があった目立たない子にこそ積極的に話を振ることの重要性も強くなっていくのではないかと考える。特別支援学習が個別最適化学習のヒントになりうるということを知って、これから始まる特別支援学校の体験に大きな意義を見出せたと思う。実際にどのような学習を行っているのか、この目で確かめるよい機会であるため、たくさん話を聞き細部に目を凝らして考えていきたい。入試やテストにおいての、合理的な配慮というのは難しい。単純に時間を短くすることや問題数を減らすことでは、納得しない者も当然いる。具体的な配慮の内容を吟味しなければならないと感じた。また、評価の仕方にも同じことが言える。何が平等でどうすれば公平かを定めることは難しい。教師がそれについて考えるのは当然であるが、生徒たちにもその配慮について考えたり意見を出したりしてもらうことが必要かもしれないと感じた。机上の空論だけではなく、実際に評価される側の意見を取り入れてけないかと考える。

今回の授業を通して、今まで障がいを持っている方のために用意されている枠（就職、入試など）に何も違和感なく、そういうものだと考えていたが、それは平等ではなく本当に必要なものなのかと疑問に思うようになりました。一定のヘルプが必要な場合もあることは分かっていますが、「公平」さを優先するか、その際に生まれる批判の声は無視で良いのか、より多くの方が生きやすい社会を築くために何が 필요한のか考えさせられるきっかけになりました。特別支援教育は今後も必要だと思います。その教育を批判するつもりはありません。ただ卒業して社会に出て、その社会がすべて障害に寛容かというところではなく、生きにくさは感じてしまうと思います。そこで自分はどうしたら良いのかそういったことが学べる場所が特別支援学校の意義なのではないかと考えました。

講義

ICT機器を効果的に活用した実践①

課題

- 提出はK-SMAPY II を通して行います。
- 提出期限は7月5日(金)です。
- 締め切り後や他の方法(メールなど)での提出は一切認めません。余裕をもって提出しましょう。
- 発表スライドの最初と最後に学生番号と氏名を記載してください
- 発表は7月8日(月)からスタートし、7月15日(月)、7月22日(月)とします。
- 次回発表したい方は、後ろに自分の席を確保しつつ、一番前にPCを置くなどして発表の意思を示してください。
- 作成するのは50分の授業ですが、授業内で紹介できるのは4分となります

今日の作業

今日は、授業の作成日です。ここからは自由に作る時間です。

■帰宅して(自宅で作成して)も構いません。

■稲垣は質問を前でお受けします。